

様式第1号（第8条、第9条関係）

事業者行動計画書 ~~（変更計画書）~~

2021年 7月 27日

（宛先）

滋賀県知事

提出者

住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地）  
滋賀県草津市東草津二丁目3番38号

氏名（法人にあっては、名称および代表者の氏名）  
草津電機 株式会社  
代表取締役社長 高田豊郎

滋賀県低炭素社会づくりの推進に関する条例 第20条第3項 ~~第20条第4項~~  
第22条第1項 ~~第22条第2項~~において準用する同条例第20条第4項 の規定に基づき、事業者行動計画を策定 ~~（変更）~~ したので、提出します。

事業者の氏名（法人にあっては、名称および代表者の氏名）	草津電機 株式会社 代表取締役社長 高田豊郎
事業者の住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地）	滋賀県草津市東草津二丁目3番38号

1 事業所の概要

事業所の名称	草津電機 株式会社 本社工場		
事業所の所在地	滋賀県草津市東草津二丁目3番38号		
主たる事業	細分類番号	2 : 9 : 9 : 9	その他の電気機械器具製造業
該当する事業者の要件	<input type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量が、年間1,500キロリットル以上の事業所を県内に有する事業者		
	<input type="checkbox"/> 従業員数が21人以上であって、エネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガス排出量が、二酸化炭素換算で年間3,000トン以上の事業所を県内に有する事業者		
	<input checked="" type="checkbox"/> 任意提出事業者		

2 計画の内容

計画の内容	別添のとおり
-------	--------

注 用紙の大きさは、日本工業規格A列4番とします。

# 標準様式第 1 号

(第 1 面)

## 1 計画期間

計画期間	2021	年度～	2030	年度
------	------	-----	------	----

## 2 低炭素社会づくりに係る取組に関する基本的な方針

草津電機は『環境に配慮した継続的な企業活動を行い、環境負荷の低減と環境保全につとめ、住みやすい社会発展に貢献します』

～環境の取組み ISO14001～

日本最大の湖 琵琶湖のほとりで生まれた草津電機は、地球環境にやさしい活動を続けています。本社地区で2000年12月にISO14001認証取得したのをはじめ、グループ各社が認証を取得し、環境改善活動を推進しています。

～草津電機株式会社 SDGs 宣言～

- (1) 常に創意工夫に努め、品質の継続的な改善活動と環境に配慮した継続的な企業活動を行います。
- (2) お客様に満足して頂ける安全・安心な商品と環境負荷の低減と環境保全につとめ住みやすい社会発展の貢献に努めます。
- (3) 国連が提唱する持続可能な開発目標(SDGs)の達成に貢献すると共に地域の社会的課題解決と経済成長の両立を目指します。

『ものづくり企業としての取組み』



・生態系への配慮、生物多様性への配慮として、水の使用量の改善と生活用水を含む綺麗な排水処理を進めます。



・持続可能で、災害に強いインフラを作り、経済成長と人々の健康で安全な暮らしを支援します。



・国際的なルールに従って、空気や水、土を汚さずに、有害な化学物質が管理されるように改善を進めます。  
・廃棄物の廃棄量の削減活動として、環境配慮型の部品・製品を開発し、情報公開を通じて物流を促す活動を進めます。

## 3 低炭素社会づくりに係る取組に関する推進体制

本取組については、別紙の ISO 事務局が主担当として行うものとします。

については、低炭素社会づくりに係る取組に関する推進体制は、別紙 「草津電機本社/本社工場 ISO 組織図」 ご参照ください。

備考 組織図を記載し、役割分担および責任者の役職を記入してください。

(第2面)

4 これまでに取り組んできた低炭素社会づくりに係る取組

- 2011年：滋賀電機(株)生産分を草津電機(株)生産分に移行。それに伴い生産量の減産。
- 2012年：電力使用量（ピーク値）も下がり、A重油使用の自家発電機を撤去。  
節電ムダ取り運動開始（待機電力の削減活動、節電パトロール）  
ISO14001改善活動にて、CO2排出量削減活動開始。
- 2013年：電力消費削減の為、各部門毎にデマンド管理を行うため、担当者のパソコンに監視ソフトを導入し管理強化。
- 2014年：営業車のガソリン使用量を削減する運動として、アイドリングストップ運動を展開。
- 2014年：生産設備の老朽化に対応した新設備の導入による節電効果あり。  
※寒波による暖房用燃料消費量が増大。
- 2015年：ダイカストマシンの1台撤去によるブタンガス使用量削減、稼働マシンの電力消費量分が削減。  
樹脂成型機を使用した生產品の終息に伴い、稼働マシンの電力消費量分が削減。
- 2016年：生産受注量（増）に伴う、エネルギー消費量が増加。
- 2017年：生産受注量（増）に伴う、エネルギー消費量が増加。
- 2018年：省エネ設備の積極的な導入。エアコン、LED電球、省エネ生産設備の制作・購入。
- 2019年：不要設備の撤去、新事務棟稼働、工場棟の改修（断熱効果改善工事等）
- 2020年：省エネ設備の積極的導入計画を立案。

(第3面)

5 自らの温室効果ガス排出量の削減に向けた取組

(1) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の削減に向けた取組の内容等

	取組項目	取組の内容	実施スケジュール
1	設備導入	工場内天井照明器具についてLED照明に変更検討する。	2021年度～ 2022年度
2	設備導入	省エネルギーエアコンに変更検討する。	2021年度～ 2022年度
3	設備導入	太陽光発電を導入する。	2021年度～ 2023年度
4	設備導入	油圧機器を電動化する。	2021年度～ 2023年度
5			
6			
7			

(2) エネルギー起源CO<sub>2</sub>以外の温室効果ガス排出量の削減に向けた取組の内容等

	温室効果ガスの種類	取組の内容	実施スケジュール
1			
2			
3			

(3) 上記の取組により達成しようとする目標および目標設定の考え方

上記の取組等により、2013年度を基準年度とし、以下の①または②のどちらかの数値目標の達成を目指します。

① 温室効果ガス削減率（総量）

2030年度 51.7%削減（2013年度対比）

② 温室効果ガス削減率（生産高原単位）

2030年度 59.3%削減（2013年度対比）

※原単位の考え方

温室効果ガス排出量は、エネルギー使用量に比例するため、  
温室効果ガス排出量/生産高の計算式にて原単位の目標を設定しました。

(第4面)

6 事業活動を通じた他者の温室効果ガスの排出削減により低炭素社会づくりに貢献する  
取組

(1) 取組の内容等

**【磁石補助型シンクロナスリラクタンスモータ】**

当社はこのモータで、国内外でのモータの高効率化に対応するため開発・製造しております。

(2) 上記の取組により達成しようとする目標および目標設定の考え方

モータの高効率化すなわちエネルギー損失を少なくすれば、温室効果ガスの排出削減につながります。よって、目標としてはモータの高効率化を評価値とします。

シンクロナスリラクタンスモータにフェライト磁石組み込み補助することで、モータ効率が約10%アップします(当社比)。

また、騒音の原因となるトルクリプルとモータ効率との両立は難しいため、リプルと効率のバランスを考慮して最適設計を行い、静音化を図りながら高効率を実現しています。それにより、希土類磁石を使用した埋込磁石同期モータと比較してほぼ同等の効率を実現します。

(別紙)

### 草津電機本社/本社工場ISO組織図

